

第9回 丹沢大山自然再生委員会 議事録

開催日時：平成22年7月13日(火) 14:00～16:00

会場：神奈川中小企業センタービル14階 多目的ホール

【開 会】

○事務局（稲本研究企画部長）

開会に先立ちまして、数点ご説明をさせていただきます。

まず、次第の次にあります自然再生委員会の名簿ですが、代表の方の交代や人事異動等による委員の変更につきまして、事前にお聞き取りして出来る限り修正しておりますが、直っていないものがありましたら、恐れ入りますが後ほど事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。FAXやメールでも結構です。

次に、平成22年度当初の県組織・執行体制の見直しに伴い、自然再生委員会所管部署が、旧緑政課から自然環境保全センターへ変更になりました。また、同じく見直しに伴い、県委員が環境農政部長から水・緑部長に変更となり、本日は宮崎水・緑部長が委員として出席しております。

また、本日は、委員ではありませんが、富士通エフアイピー株式会社様にご出席頂いております。議題5で、新たな協働活動についてご提案をいただきますので、ご紹介申し上げます。

では、ただいまから第9回「丹沢大山自然再生委員会」を開会させていただきます。ここからの議事進行につきましては、木平委員長をお願いいたします。

○木平委員長

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、日頃からこの会の運営にご協力いただき感謝しています。

まず、皆様に大変残念なお知らせがございます。我々のメンバーであった丹沢大山ボランティアネットワークの奥津昌哉さんがこの4月に亡くなりました。また、丹沢大山総合調査等で大変深く関わっていただき、調査に尽力された浜口哲一さんが5月に亡くなりました。お二人のご冥福をお祈りするとともに、お二人の遺志を継いでしっかりと再生活動を進めていきたいと考えております。

さて、この委員会が発足したのはもう4年も前ですが、その間には委員の皆様、自治体、県、国が一体となって、いわゆる県民協働によりこの運動を進めて参りました。また、更にそれを発展させるために、自然再生プロジェクト推進制度を新しく作りました。いろいろな組織に入っていて、再生活動を更に元気よく進めていきたいと考えております。今年度は、5年目の活動として、新しいシ

システムに則って更に活発に進めて参りたいと思います。

本日は定例会として、昨年度事業の決算と今年度事業計画・予算をご審議いただきたいと思います。また、奥津さんが亡くなられたことに伴う委員の選任を行います。また、続きまして、事業計画・評価専門部会と県民事業専門部会からこの1年間の活動や今後の予定などにつきましてご報告し、ご審議いただきたいと思います。

更に、様々な新しい組織や団体に参加していただき活動を展開したいという提案がございますので、これに関しても皆様のご意見をお願いします。

では、早速お手元の議事次第に従いまして、議題の1「平成21年度事業実績・収支決算について」に入りたいと思います。事務局お願いします。

議案1 平成21年度事業実績・決算について事務局から資料1・2により説明

- ・平成21年度事業実績報告
- ・企業等からの寄付報告
- ・平成21年度決算及び監査報告

質疑無し 拍手にて承認

議案2 事業計画・予算について事務局から資料3～5により説明

- ・平成22年度事業計画
- ・平成22年度予算

質疑応答

○宮が瀬ダム周辺振興財団・高瀬委員

予備費が前年200万越えていて、今年度も300万近くあるが、これはお金を使わないでずっと繰り越しているようにしているように見える。企業からの寄付金をもっと有効に使うべきだと思う。今年の予算では50万を予定しているが、予定額より多い額を繰り越す予算（案）となっている。折角いただいた寄付金を繰り越すのはもったいないので活用すべきではないか。今年の予算案は、これで良いが、来年度以降に向けて検討いただきたい。

○木平委員長

使い道はたくさんあるが、この会の運営としては、委員の会費・ご寄付で予算が成り立っているが、寄付は不安定なところがあるので、そのようなことを考えながら最低必要な活動にお金を使っているということがある。事務局から何か追加ありますか。

○事務局

通常、年度初めに会費が入らないが、年度初めのホームページの維持管理費、事務局経費にあてるために常に予備費、繰越金100万円を目処に確保しておきたいことから、この予算編成になっています。寄付金については、年度初めにいただければ有効に使えるが、後半のほうにいただいた場合は、次年度に有効活用することとなります。

○北丹沢山岳センター・杉本委員

総会なので別の話になるかもしれない、何回かこの席で申し上げたが、丹沢大山自然再生委員会なので、限定されて活動を続けていると思いますが、私が住んでいる陣馬山系は高尾山の人気の関係でかなり多くの登山者が来る。最近シカや猿など動物の被害が膨大になっている。人が増えるに従い公衆トイレを整備いただきたいと依頼しているが、県はこういった丹沢の活動にお金を回すので予算がないと聞いている。

国立公園優先はわかるが、県立陣馬相模湖自然公園や富士伊豆箱根国立公園とのバランスを考え、先も考え、いろんな所に目を向けているようなことができるよう采配をふるっていただきたい。検討していただきたい。

○木平委員長

委員会自体は計画を作るのではなく、県の施策を委員会が検討するというところでありますが、特に今年は次期計画を検討する時期なのでそういったご意見を十分に検討します。それでは、ご承認を願う。

拍手にて承認

○事務局

- ・共催後援イベント実施予定について、資料5にて事務局 羽太副技幹から説明 質疑無し

議事3 監事の選任等について事務局から資料6・7により説明

・奥津監事が逝去されたため監事2名の内1名が現在欠員となっているため、後任として丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会代表となった杉山委員を監事として提案する旨を事務局から説明

質疑無し 拍手にて承認

丹沢大山ボランティアネットワーク 杉山委員挨拶

・丹沢大山自然再生委員会設置要綱第12条第2項の一部改正（事務局より、監事の役割を切り分け、幹事構成員から監事を外す内容の改正を提案）

質疑無し 承認

議事4 専門部会の報告・提案について

(1) 事業計画・評価専門部会（資料8～10）

・羽山委員から概要説明後、丹沢大山自然再生計画（神奈川県）中間報告の検討状況ならびに事業点検結果の報告について、事務局より説明

○羽山委員（事業評価専門部会長）

昨年度から検討を重ね、自然再生計画が始まって、残念ながら全体には自然植生の回復はなされていないが、この計画によって局所的には成果が見られている。シカ対策については他地域より捕獲努力を続けて、従来より倍近い労力をかけてきたが改善しない。

そこで次期計画にむけては更にメリハリをつけて重点的に、また62事業を戦略的に連携させていかないと成果が出てこない。特にシカ管理と森林管理を同じ場所でバランスをとってやらないと成果が出ないことがわかった。次期5ヵ年計画に向けてはこの方向で提言をまとめていきたい。

質疑応答

○新堀副委員長

心配なので申し上げるが、シカの問題があまりうまく進んでいない、鳥獣総合対策協議会では、猟友会に努力いただいているが、猟友会だけで管理捕獲が進むか懸念を抱いている。特に標高の高い所については、管理捕獲が進まないのではないか。

猟友会には大変感謝しているが、このままで行くと、猟友会のみではうまくいかなくなるが他に担い手は居ない、非常に深刻な状況である。その点を皆さんにお認めいただきたい。

○丹沢自然保護協会・中村委員

新堀先生とも関連するが、先ほどから一体管理という話が出ているが、森林の一体管理は私どもの団体も昔から県へ要望を繰り返している。それと同じように、丹沢自然保護協会員も誤解しているところがあるが、再生委員会の事業評価は自

然再生の事業のみ評価していて、丹沢全体の事業評価をしていない。例えば、一番直接的に関係がある水源環境税の事業の評価がされていない。シカや溪畔林をやろうと言って下さっていて前に進んでいると思うが、一般県民の方は、ダムより下で水源税が使われていることを知らない。ダムより上で全部使われていると思っている。もっとシカに直接関わりを持つ森林整備について、水源税を使うようにこの委員会から提言すべきである。この再生委員会は行政内の委員会ではない。水源の委員会は行政の中の委員会で、それぞれ立場上違うが、同じ丹沢の中で、同じく評価をして次につなげていくのであれば、お互いにそれをすりあわせしていく場面があっても良いのではないか。それが丹沢の自然再生を進める事業を最終的にひとつの方向へ進めるのではないか。これを委員長に要望したい。再生委員会に参加する個別の団体がずっと要望しているのだから委員会として出しても良いのではないか。是非考えていただきたい。

○北丹沢山岳センター 杉本委員

先ほどの8つの特定課題にはならないが、中村委員と同じことで、北丹沢周辺で何が起きているかという、大規模な土砂流出がずっと続いている。目測で毎年大きな崩れがきている。これを県はどう考えるのか。具体的には、東海自然歩道の袖平山は保全センターが管轄しているが、崩れるたびに歩道ルートへ回遊している。その下には社宮司沢があるが毎年目測でわかるほど大規模に崩れている。

また、蛭ヶ岳ではユーシン谷に毎年崩れが拡大している。あと15年もすれば山頂はすべてユーシン谷に持って行かれるのではないか。ユーシン谷の土砂の流出は大変なことで、これをどうするか。

仏谷も大規模崩落、神の川流域でも広河原の彦右エ門谷が埋まってきており下へ大規模流出している。そこで植林活動をやっているが、1/3は土砂がえぐり取られてきている。また、神ノ川日陰沢で工事をやっているが、大谷沢のところで崩れがきている。大室山では黒岩下も崩れがきている。総じて北丹沢は危機的な状況である。

皆心配している北丹沢の状況について、県の施策の中で、山が大きく変化してきていることについて、自然再生委員会として、明確に手をさしのべていく必要があるのではないか。現地を調査し、調査委員会等で毎年どのくらい崩れるのか科学的な分析をしていただきたい。

○丹沢資料保存会 渡辺委員

ひとつは崩壊地の問題で、ただいまお話のあった袖平山西面のガレ場は、丹沢でも目立つ崩壊のひとつとなってきましたが、他にも、この十数年来、高標高部の稜線で、以前には見られなかった崩壊が進んでいる場所が多く見られるよう

になっている。例えば小川谷上流新山沢上部の名無沢など石棚山上方、P1450付近の広いブナ林にローム層の凄絶な崩壊が迫っており、また、やはりお話にあった蛭ヶ岳周辺も、昔から有名だった仏谷のほか、今は南の熊木東沢の急な崩壊が山頂に迫っている。これらは、現在、多くの方々のご尽力により効果が見られ始めた森林、特に林床植生の回復と、場所によっては、砂防の対策がさらに急がれると思う。

また、西丹沢の最もオーバーユースルートである「つつじ新道」で、樹根の露出について、大変ご心配をいただいている例があるが、この尾根筋の地盤、樹林の現状は、目視の限りでは、県でも登山道整備にご苦労いただいている石棚尾根稜線近くのローム層地帯を除けば安定しており、あまり心配はないと思われる。

もうひとつは、ブナ林の再生に関連して、現在、山中のブナ林の中には数少ないが若いブナ林が回復してきているところが見られるが、この若齢林の保護観察に目が向けられていないようで、林床へのシカ等の影響が心配である。また、最もまとまっていると思われる場所には登山道が通っているが、マイナールートなので現状では多人数の踏み込みの心配は少ない。これが知られた場合のツアー登山や節度のない踏み込みに対する対策を早急に講じておく必要があるのではないか。

○新堀副委員長

杉本委員の発言は、関東大震災時に崩れた崩壊地のことである。これをどうするかは大変な問題である。北丹沢だけでなく丹沢全山に相当あるはずなので、危険かどうかをまず調べてもらいたい。自然の崩壊地は行政が手をつけられない。勉強して今の状況を把握してもらうことが必要である。

○木平委員長

今の意見をまとめてみますと、崩壊地、ブナの更新、人の踏み込み及び猟友会等の問題があるが、事業評価部会の中で検討して、県の再生計画に盛り込む部類のものと、もうひとつのご指摘は、自然再生ということであれば水源環境税との関わりと再生委員会との調整が必要ではないか、という大きな二つの意見がありました。

事業評価部会についてはこれから検討するが、問題は水源環境税の県民会議、再生委員会をどうするか。内部的には県庁内部で行われているが、公式では調整されていない。そこをしっかりとやれというご指摘でした。

自然再生委員会と水源環境税はスタートは異なるが、目指すところは「再生」で同じ目的である。調整の仕方については問題があるということをしっかり受け止めます。

まだ問題はあるとは思いますが、まだ議題は残っており時間がないので会議時間を

延長する。

5分休憩

(2) 県民事業専門部会（資料11）

・植樹祭の報告、ワールドフェスタ、自然再生活動報告会、その他広報活動について事務局より説明

○中村委員（県民事業専門部会長）

報告の前に一言、山を毎日見ているので分かるが、1980年頃を境に、関東大震災の崩壊が狭くなった場所がある。それは県による緑化と自然に樹木が育ったりして崩壊地が狭くなった2種類がある。ところが、80年代までに自然の力で崩壊が収まったところと収まらなかったところがあり、収まらなかったところで、今、崩壊が広がっている。

その理由はシカの影響。そこで森林を再生するには水源環境税をもう少し効果が出るような利用方法を考えること。もうひとつは、山の崩壊は自然現象の一つであり、すべてを緑化する必要はない。しかし、そこは個別に見て、一つ一つを行政技術職員に判断いただきたいが、今は職員が少なくなっている。そこで、この委員会に参加する委員や研究者で補えるところがあれば、緑化や治山に必要な箇所があれば行政に提言していくような方法もあるのではないかと。

先ほどの事務局説明の中で、それなりに活発に事業が展開していますが、不満が少々ある。それは繰越金がこんなにあることについてである。常々思っているが、具体的に様々な団体が集まって、様々な協働体制が整っていて、事業展開されている点については評価している。更にこういった活動が活発になるように努力しているが、私も努力しますので、委員の皆さんもご協力をお願いします。

○中村委員（県民事業専門部会長）

ロゴの作成については普及啓発プロジェクトチームで検討するが、秋以降行事がたくさんあるので、もしできましたら、完成するとともに使っていきたい。普及啓発プロジェクトチームで検討しますが、総会にかけると1年かかるので、よろしければ一任いただきたい。

質疑なし 承認

5 様々な主体による協働活動の促進について

(1) 丹沢大山の自然再生活動の積極的な展開に向けて

・NPO法人みろく山の会の取組み

鈴木氏より、県と整備協定を締結した登山道大倉尾根線の整備の取り組みをパワーポイントにより説明

- ・サントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト

山田委員より、「天然水の森 丹沢」の取り組みについて、全国植樹祭での出展状況や今後の調査予定などについてパワーポイントで説明

- ・自然再生プロジェクト推進制度の活用について（資料1 2）
事務局より、制度の要点をパワーポイントで説明

（2）新しい協働活動の提案紹介

- ・富士通エフ・アイ・ピー株式会社からの提案

秦野氏より、ITサービスによる丹沢大山自然再生委員会への支援計画等と、近い将来自然再生プロジェクトへの登録を目指す旨をパワーポイントで説明

- ・中日本高速道路株式会社の取組紹介（資料1 3）

事務局より、中日本高速道路が持つ緑化技術を活用した「地域性苗木を丹沢へ」の提案概要と、将来的に自然再生プロジェクトへの登録を目指す旨を資料にて説明

○木平委員長

新しい組織から新しい提案があった。内容が固まり次第、正式な提案として皆様にお諮りしたい

6 その他

・ウイークリー知事現場訪問「丹沢大山（西丹沢）における自然再生の取組」について、事務局より参考資料2により説明

○木平委員長

それでは議事を終了させていただきます。事務局にお返しします。

【閉 会】

○事務局（松田所長）

ありがとうございました。今年度4月から自然環境保全センターに事務局機能がうつりました。ぜひ活発な議論と積極的な展開を支えていきたいと思っております。これを持ちまして、第9回の再生委員会を閉会させていただきます。皆様ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。